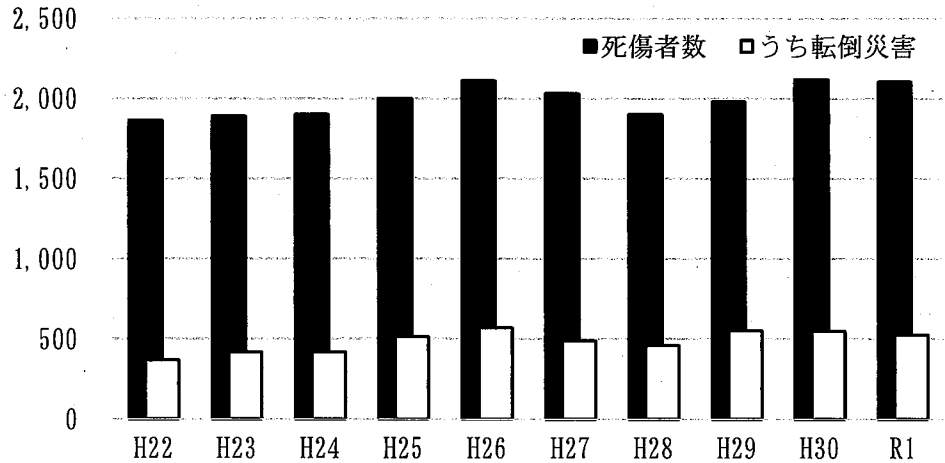


## 長野県における転倒災害の発生状況

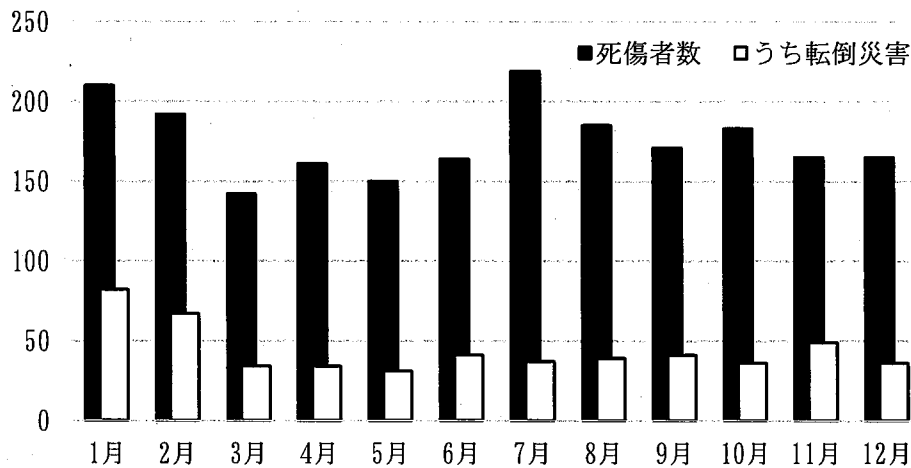
## 休業4日以上死傷者数の推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
死傷者数	1,864	1,890	1,903	2,000	2,113	2,032	1,903	1,983	2,120	2,107
うち転倒災害	369	418	419	515	570	489	461	553	551	527
割合(%)	19.8	22.1	22.0	25.8	27.0	24.1	24.2	27.9	26.0	25.0

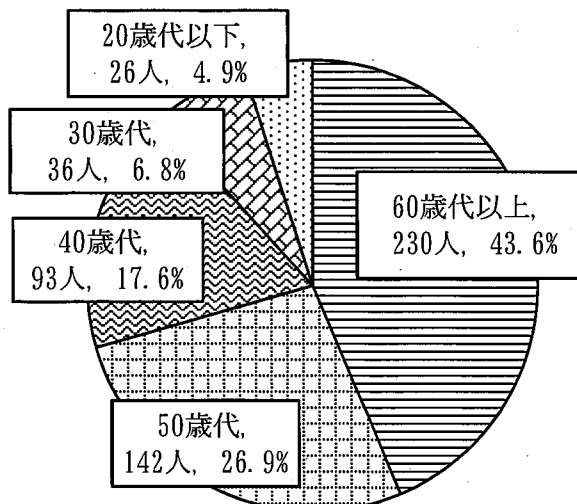


## 令和元年の月別労働災害発生状況

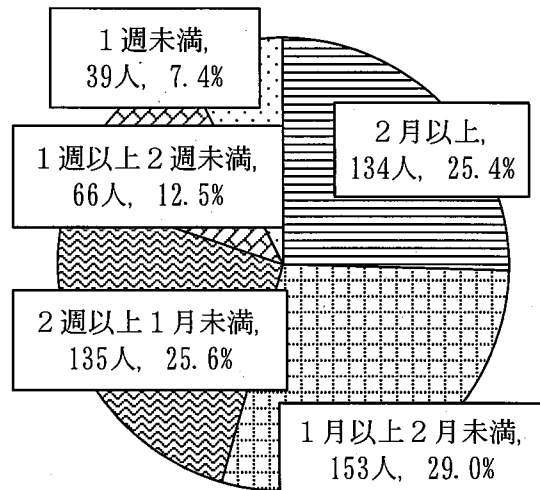
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
死傷者数	210	192	142	161	150	164	219	185	171	183	165	165
うち転倒災害	82	67	34	34	31	41	37	39	41	36	49	36
割合(%)	39.0	34.9	23.9	21.1	20.7	25.0	16.9	21.1	24.0	19.7	29.7	21.8



## 令和元年の年齢別転倒災害発生状況



## 令和元年の転倒災害の休業見込み期間状況



# 冬季における転倒災害の特徴

## 特徴 1

### 事故の4割が60歳以上

冬季転倒災害の約4割は60歳代以上が被災者です。50歳代以上では全体の約7割にもなります。高齢労働者は筋力や体力の衰えによって被災しやすいことに加え、休業が長期化しやすい傾向にもあるため、徹底した対策が必要です。

## 特徴 2

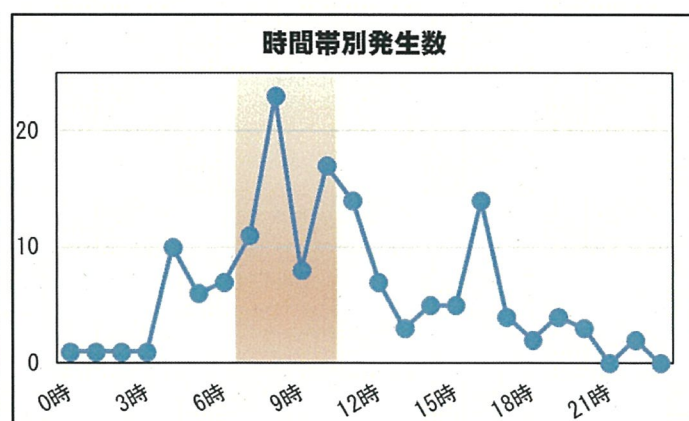
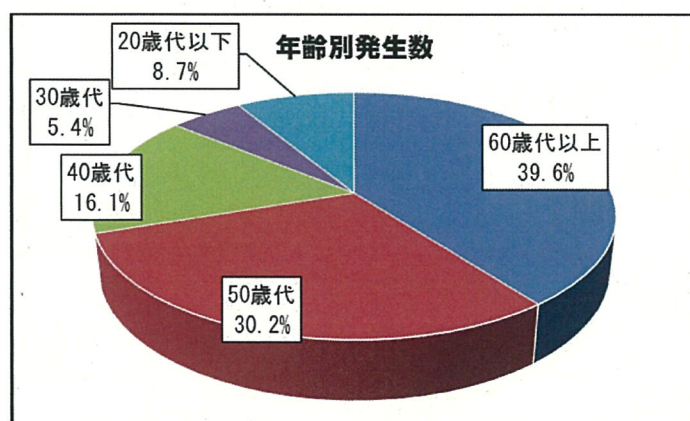
### 朝の通勤時間帯に特に多い

通勤時間帯は、夜のうちにできた凍結面等が日光で少し溶けていることがあり、より滑りやすくなっています。また、日中の仕事をされている方の場合、体が完全に覚醒していない時間帯でもあるため、特に注意が必要です。

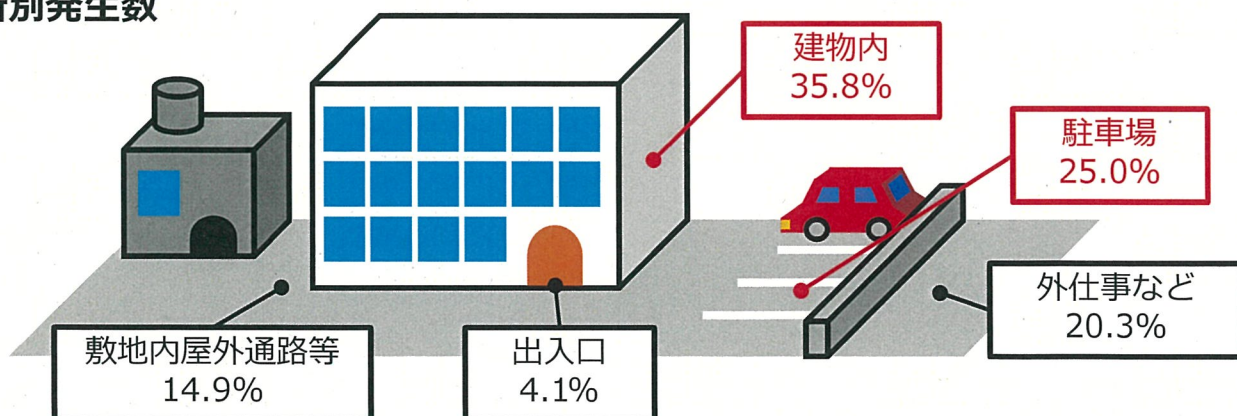
## 特徴 3

### 事故の約8割が事業場の敷地内

事業場の中では、特に建物内や駐車場での割合が高くなっています。建物内では、外から持ち込まれた雪や水分で転倒しているケースが多く、駐車場では、降車時に足下の確認が疎かになる、照明がなく暗い、急いでいる状況等の特徴が見られる事故が多くなっています。事業場においては、これらの特徴を踏まえた対策が必要です。



### 場所別発生数



※上記データは、平成31年1月及び2月の長野県内で発生した転倒災害の発生状況（確定値）からまとめたものです。

## あなたの職場は大丈夫？

凍結等による転倒のリスクを  
チェックしてみましょう

チェック項目		<input checked="" type="checkbox"/>
1	積雪、凍結時に転倒のおそれのある場所は、事業場内で認識していますか	<input type="checkbox"/>
2	除雪用具、融雪剤、転倒防止用マットを準備していますか	<input type="checkbox"/>
3	段差のある箇所や滑りやすい場所などを、転倒危険場所として「見える化」していますか	<input type="checkbox"/>
4	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
5	「ながら歩き」や走っての移動、ポケットに手を入れたまま歩くことなどを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
6	屋外通路や駐車場等における転倒防止のため、滑りにくい靴や手袋の着用を推奨していますか	<input type="checkbox"/>
7	降雪、凍結前に労働者に対し、転倒を予防するための教育・指導等を実施していますか	<input type="checkbox"/>
8	降雪、気温に関する気象情報を把握し、注意喚起を行うための体制を確保していますか	<input type="checkbox"/>

※対策の方法等、詳細は裏面をご参照ください。



長野労働局・各労働基準監督署



## 転倒災害を防止しましょう！～具体的対策～

- 1 本格的な降雪・路面凍結前に、冬季における転倒災害防止対策の準備期間を設定し、裏のチェックリストを活用して職場を点検、改善しましょう。
- 2 屋外通路や駐車場における除雪、融雪剤の散布により、安全通路を確保しましょう。
- 3 事務所出入口へのヒートマットや、凍結のおそれのある屋内の通路、作業場への温風機の設置等により、凍結路面等における転倒災害防止対策を講じましょう。
- 4 転倒危険場所を「見える化」し、危険マップ、ステッカーの作成・掲示と従業員への教育を通じて、注意喚起を図りましょう。
- 5 事務所への入室時における靴裏の雪・水分の除去を徹底しましょう。
- 6 「ながら歩き」や走っての移動等の危険行動を禁止し、作業場所や内容に応じて、滑りにくい靴等の着用を勧奨しましょう。
- 7 降雪、気温に関する気象情報を把握し、注意喚起するとともに、状況に応じて、出張・作業計画等の見直しを検討しましょう。
- 8 特に高年齢労働者については、個々人の身体機能に配慮して作業内容の調整を図るとともに、作業開始前に、準備運動やストレッチ体操を行い、体を十分にほぐしてから作業に着手できるようにしましょう。

事務所出入口のヒートマットの設置例



転倒危険場所の見える化ステッカー

